

夢童

菅波 茂

8月2日。AMDAは岡山大と連携協力に関する協定を結んだ。私の願いはただ一つである。「世界が必要とする岡山大」である。岡山大は母校である。母校の発展に寄与できるのは卒業生として最大の名誉である。独立行政法人の独立とは自己責任である。責任あるところに権限有り。世の常識である。

過去から明日を考えるのか。十年後から明日を考えるのか。過去は確実であるが、未来は不確実である。決定的な違いである。未来における岡山大の機軸を、西日本、日本、アジア・太平洋州、あるいは世界のいずれに置くのか。機軸により戦略、戦略、戦術とすべてが変化する。

AMDAは世界を機軸に置

き、ジュネーブとニューヨークに事務所を開設して国連、国際機関、各国政府、国際NGO（非政府組織）、ローカルNGOなどとの連携による人道支援の展開を考えている。AMDAの国際ネットワークが岡山大の明日にお役に立てば幸いである。

石井正弘県知事に、AMDAと岡山大との連携協力に関する協定書調印式で立会人になっていただきたい。県は全国の都道府県に先駆けて国際貢献条例を制定している。道州制を視野に入れた先見の明である。

道州の人口は1000万〜1500万人。国際社会では一國に匹敵する規模である。道州制には二つの目的がある。一つは国内での地域特性を生かした競争である。もう一つは国際社会への直接的発信である。「知事の外交」の時代が来る。国際貢献が地

域おこしに直結する時代である。

歴史にヒントがある。明治維新を成し遂げたのは薩長土肥の薩長である。薩長は海外との密貿易から軍資金を得ていた。わが国では歴代の権力

が御朱印船方式により海外との貿易の利益を独占していたことから明白である。「平成の維新」は道州制にあり。県・岡・岡山大・AMDAの三者連携が起爆剤になれば幸いである。

岡山大と連携協力

「政治は対立。経済は不均衡。文化は不条理」。国際社会のダイナミズム

を理解するための3大機軸である。イラクを含む中東紛争をドルとユーロの世界基軸通貨の対立と設定すれば政治の問題になる。キリスト教とイスラム教の衝突と考えれば文化の問題になる。

日本が国際社会で唯一外交

を持っていない国が北朝鮮であるが、北朝鮮は世界の国々と正式な外交を持っている。

北朝鮮が国際社会で孤立していないことを知れば対立軸の設定が変わる。対処法も異なってくる。死を伴う可能性のある不法入国は、経済の不均衡が単に資金や物だけでなく、人の移動をも発生させているという事実である。欧州連合では、経済の不均衡に派生する人道問題（文化）として、メディアが不法入国者の死を頻繁に取り上げている。

21世紀の問題解決方式はネットワークの離合集散になる。自己完結は破滅への方程式。自己責任とは自らのネットワークの拡充と、問題解決に必要なネットワークの協力体制の確立である。問題解決のために苦勞を共にするパートナーシップはAMDAの命題である。（AMDA代表）

題字は筆者